

「弥永コレクション」資料収集の足取り

山際秀紀（生活文化研究グループ）

「弥永コレクション」は、弥永芳子さんが長年の研究活動の中で収集してきた膨大な資料群であり、「弥永北海道博物館」で公開していたものです。その貴重な資料に対しては、東京や海外の著名な博物館から購入や寄贈の申し入れが何度となく寄せられていました。しかしながら弥永さんは、ご自身の集めた資料を、できれば北海道内の公的な機関へ寄贈したいと強く希望されていたそうです。

当館の前身である北海道開拓記念館が弥永さんから資料の寄贈の打診を最初にいただいたのは、2009（平成21）年のことでした。それから2011年度にかけて、貝標本、板状土偶他、アイヌ衣服やアイヌ絵などについての情報をいただきながら、館内で受入について検討を重ねました。2013年2月からは弥永さんのもとをお訪ねして資料の調査を開始しました。

そのような経緯で、2015年1月には、まもなく弥永北海道博物館を閉めるということ、その折には当館に資料を一括して寄贈したいということについて、お話をいただきました。

弥永さんは「集めた資料は、多くの人の助けを受けながら山野に分け入って採取したものや、財産のほとんどをつぎ込んで入手したものなの。でも、自分の子どもたちには、教育などは十分に受けさせるけど財産は残す気がないと小さい時から言ってきたの。だからなのか、子どもたちも価値ある物も一切いらないので博物館に寄贈してほしいと言っているのよ」、また、「自分にとっての宝は、苦労して集めて研究した資料や高価な物ではなく研究や資料収集の際に築きあげた人間関係なの」ともおっしゃっていました。

これを受けて当館では同月、資料を一括して受入れる方針を決定し、資料の収集を開始しました。同年4月には北海道開拓記念館が改組されて北海道博物館となり、新体制のもと資料の収集・管理を担当する「博物館基盤グループ」が中心となって資料収集を進めてきました。

2016年6月には、弥永さんご本人が来館され、当館館長と懇談しました。その際、資料寄贈にあたっての要望として、資料の概要を広く伝えるための展示会の開催や図録の作成などが伝えられました。

資料の調査と収集でお宅を訪ねるたび、弥永さんからは、歴史的・研究史的に貴重なお話から資料の入手にかかわるエピソードまで、数々の印象的なお話を聞かせていただきました。「小さい頃から好奇心が強く、何度もしつこく訊くのでよく父親から怒られていたの」「近所に住む大学生のお兄ちゃんたちに、素朴な疑問をぶつけては困らせていたこともあるのよ」など、まさに研究者向きの素質といえるこのような好奇心が、弥永さんを金貨から貨幣史、そして砂金や鉱物などの研究の道へと



資料調査風景 1：
2013（平成25）年7月19日



資料調査風景 2：
2013（平成25）年7月19日



資料調査風景 3：
2014（平成26）年10月17日



資料調査風景 4：
2014（平成26）年10月17日

進ませたのだと思います。

「貨幣史をやる人は高価な貨幣は大事にするけど、どの貨幣も多くの人の手に渡って使われた物で、同じように重要なよ、と教えているの」ともおっしゃっていましたが、その言葉どおり、どんなものも大切に、疑問に思ったことを掘り下げた結果として、膨大な資料群になったということです。

砂金や化石の採取については、何度かクマに遭遇しながらも、避け方を砂金掘りのおじいちゃんたちから教わり、50年間北海道のヤマを初め、世界中で砂金・砂白金を採取してきたそうです。

最初に砂金掘りを教わったのは、浜頓別町の、現在「ウソタンナイ砂金採掘公園」になっている場所に住んでいた「半沢のおじいちゃん」（半沢長十郎氏）で、はじめて自分で砂金を見つけた時は「うわーと思った」そうです。半沢のおじいちゃんには20年間ついて、道内各地で砂金をとりましたが、自分が女性であるため砂金掘りの場所を荒らさないこと、研究に必要な標本が採れたらそれ以上は欲しがらなかったことから、全道各地にいた多くの砂金掘りのおじいちゃんが一緒に砂金を採りながら、ヤマで生活をする方法などいろいろ教えてくれたとのこと。

また、「陸ガメの化石を発見した時は、5～6人で大夕張の白金川上流の崖でアンモナイトなどを採取していた時に、大きな化石を見つけてイノセラムスか何かと思い、他の人たちに頼んで腰まである川を渡って運んでもらい、クリーニングすると、石の部分がきれいにパカッととれてカメの化石が出てきた」とのことです。その場所は、「川では砂白金が採れて、崖ではアンモナイトが出るため、何度も行って、クマに遭遇したこともある」そうです。

弥永さんの話はおもしろく、話を始めると数時間があっという間に過ぎてしまいます。その記憶力は、いろいろなことを細かく覚えていて、驚くばかりです。

弥永コレクション調査・収集年月日および担当職員

年月日	区分	氏名
2013（平成25）年02月19日	調査	山際秀紀・添田雄二・春木晶子
2013（平成25）年07月19日	調査	出利葉浩司・山際秀紀・春木晶子・圓谷昂史
2014（平成26）年10月17日	調査	右代啓視・山際秀紀・鈴木琢也・春木晶子・圓谷昂史
2015（平成27）年03月26日	収集	山際秀紀・圓谷昂史
2015（平成27）年05月29日	収集	右代啓視・堀繁久・山際秀紀・三浦泰之・鈴木琢也・田村雅史
2015（平成27）年08月12日	調査	山際秀紀・圓谷昂史
2015（平成27）年12月22日	収集	堀繁久・山際秀紀・圓谷昂史
2016（平成28）年05月13日	調査	堀繁久・山際秀紀
2016（平成28）年07月14日	調査	堀繁久・山際秀紀
2017（平成29）年04月29日	収集	堀繁久・山際秀紀・大坂拓
2017（平成29）年05月02日	収集	堀繁久・山際秀紀
2017（平成29）年05月24日	収集	堀繁久・山際秀紀
2017（平成29）年05月27日	収集	堀繁久・山際秀紀
2017（平成29）年06月06日	調査	堀繁久・山際秀紀
2017（平成29）年06月08日	収集	堀繁久・山際秀紀
2017（平成29）年09月09日	調査	水島未記・圓谷昂史

分野別資料件数及び点数

	1 記録	2 地学	3 生物	4 考古	5 民族	6 生活	7 産業	8 文書	9 美術	総数
件数	1	197	87	16	83	9	427	95	7	922 件
点数	1	329	328	666	85	9	549	96	7	2,070 点

第9回企画テーマ展「弥永コレクション」

■会期：2017（平成29）年10月20日（金）～11月26日（日）

■会場：北海道博物館 特別展示室

■主催：北海道博物館

■展示プロジェクトチーム：

責任者

学芸副館長 小川正人

学芸部長 舟山直治

展示構成

堀繁久（チーフ）・山際秀紀（サブチーフ）・右代啓視・圓谷昂史・大坂拓・鈴木琢也・
添田雄二・田村雅史・春木晶子・舟山直治・水島未記

図録編集・執筆

編集長 小川正人・舟山直治

副編集長 堀繁久・山際秀紀

執筆 右代啓視・圓谷昂史・大坂拓・表溪太・鈴木琢也・添田雄二・田村雅史・
春木晶子・舟山直治・堀繁久・水島未記・山際秀紀

展示デザイン・図録表紙デザイン

表溪太

弥永コレクション 資料収集・整理メンバー

会田理人・青柳かつら・池田貴夫・右代啓視・遠藤志保・圓谷昂史・大坂拓・尾曲香織・
表溪太・鈴木琢也・添田雄二・田村雅史・出利葉浩司・春木晶子・舟山直治・堀繁久・
三浦泰之・水島未記・山際秀紀

北海道博物館一括資料目録 第1集 弥永コレクション

発行日／2017（平成29）年10月20日

編集／北海道博物館

発行／北海道博物館

印刷／ひまわり印刷株式会社

北海道札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

Tel：011-898-0456 Fax：011-898-2657